追悼

永井秀文さんを悼む

舞台音響家　松木 哲志

永井 秀文（1949年3月1日-2023年12月7日）

協会の理事としてはもちろんのこと、舞台音響界にとって大変な功績のあった永井秀文氏が昨年（2023年）12月７日に逝去されました。74歳でした。

筆者は氏とは晩年（ということになってしまいました）に縁があり、ご自身がコンサルティングに関わられたすみだトリフォニーホールでの新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会の録音に何度か立ち会わせて頂きました。氏が要望を出して設けられたという天井のマイク１点吊り19本!のうち６本を下ろし（サラウンド録音でした）、あらかじめ長さを決めてあるワイヤーでつないだだけで仕込み終了という、スマートな手法に目をシロクロさ

せるばかりでした。

そんな進取の精神に富んだ氏とは長いつき合いの当協会顧問、松木哲志氏に追悼の言葉を寄せて頂きましたのでご紹介します。（編集部）

永井秀文さんが2023年の12月７日に亡くなりました。松木とは50年近く一緒に、汗をかいた仲間で、享年74歳でした。ちょっと頑固で一人で勉強を重ね、なかなか手ごわかった永井さんは学生時代からBassを弾いていた関西フォークの草分けで、日本楽器製造株式会社（現ヤマハ）心斎橋支店で、音楽講師や音響の仕事を始め、1974年財団法人ヤマハ音楽振興会のエピキュラスの設立に伴って東京に移りました。日本舞台音響家協会の前身である日本PA技術者協議会（PA協）には設立時（1977年）から参加し、2000年に日本演劇音響効果家協会とPA協が合併して日本舞台音響家協会が設立された際にも、理事として積極的に動かれていました。特に1981年から始まった厚生労働省管轄の技能検定「舞台機構調整技能士・音響」の担当として2021年まで理事を務めあげ、東京都では首席の検定員を担当していました。

財団ヤマハ音楽振興会では、PA録音エンジニアとしてポプコン、世界歌謡祭、因幡晃、中島みゆき、JOC等のコンサートで活躍しました。特に日本武道館で行われた世界歌謡祭（1970年～1989年）の音響グループ（日本楽器製造株式会社、財団ヤマハ音響グループ、㈱サウンドクラフト）の仕事では「音響測定をコンサートの現場に持ち込み、近代PAの理論構築」のメンバーになり、その後のアリーナやドームでのコンサートの音響の基礎を作り上げたと思います。

財団ヤマハを退職し、音響芸術専門学校に

第9回 世界歌謡祭（日本武道館）

2009年就職して、ゼミ指導のほか、音響技術研究科の授業や課外録音を主に担当し、ウィーン交響楽団、ベルリン交響楽団、新日本フィルハーモニーなどクラシック音楽の録音プロデュースや録音を行い、学校長の見上陽一郎さんからは「将来性があると見込んだ学生たちには目をかけて、愛情を持って鍛え、その薫陶を受けて活躍している卒業生たちの多くが、永井さんの訃報にかなりのショックを受けているようです」と言うお便りをいただきました。

私が所属している㈱エス・シー・アライアンスの第一世代の協会員も、このコロナ禍の最中に肺がんで次々と亡くなり、永井さんに連絡した折に「私も、遺伝で、肺気腫を患っています。一度会いたいですね」と小さな声の電話が最後でした。何時か来るのは覚悟していましたが残念です。

永井さん、音響の夜明け時代を一緒に駆け巡った事を想い出します。

合掌

すみだトリフォニーホールで学生を指導する永井氏

厳しくも優しい目で見守る